

関係機関・団体長  
病害虫防除員  
農薬管理指導士 } 様

山口県病害虫防除所長

ムギ類の赤かび病の防除について（技術資料第1号）について

本年のムギ類の出穂期は遅くなると見込まれています。ムギ類赤かび病の第1回目の防除適期は、出穂期後5～10日ですので、防除時期も遅くなると予想されます。つきましては、下記を参考として防除に万全を期すよう指導の徹底をお願いします。

記

ムギ類の赤かび病の防除対策

1 防除時期

- 1回目：開花最盛期（表1）
- 2回目：第1回目の防除後、7～10日
- 3回目：第2回目の防除後、7～10日

表1 防除適期の目安（山口県農業試験場ほ場：平成17年11月15日播種）

麦種	品 種	1回目 防除適期の目安	出穂期		
			本年予測	平年	平年比
二条大麦	アサカゴールド	4 / 1 8	4 / 13	4 / 8	5日遅い
はだか麦	イチバンボシ	4 / 1 8	4 / 13	4 / 7	6日遅い
小麦	チクゴイズミ	4 / 2 2	4 / 17	4 / 11	6日遅い
小麦	ニシノカオリ	4 / 2 3	4 / 18	4 / 12	6日遅い
小麦	農林61号	4 / 2 7	4 / 22	4 / 15	7日遅い

注1) 出穂期は、推定有効茎数の約50%が出穂した日とした。

注2) 防除適期は、出穂期後5～10日（開花最盛期・但しアサカゴールドは閉花受粉のため穂揃期）であるが防除時期が遅れるのを防ぐため、出穂期後5日とした。

注3) 表は、農試ほ場で今後平年並みの気象で推移した場合の出穂期予測であり、各地域の1回目防除適期（開花最盛期）は、本表を参考に播種時期や気象条件等を考慮して予測する。

2 防除薬剤

防除薬剤は、表2、3による。なお、トップジンM剤は「出穂期以降の使用は1回以内」に変更になったため注意する。

3 防除上注意すべき事項

ア 穂に症状（桃色のかび）が認められるのは乳熟期以降であるため、症状がみられなくても、予防防除を必ず実施する。

イ 開花期が最も感染しやすいので、防除時期（表1）が遅れないようにする。降雨等で適期防除が難しいと予想される場合は、防除適期より早い場合であっても降雨前に防除する方が望ましい。

ウ 農薬使用基準を遵守する（表2、表3）。特に、農薬散布の際は他作物に飛散しないように注意する。

表2 ムギ類の赤かび病の主要防除薬剤

大グループ名	作物名	薬剤名	農薬使用基準				
			使用濃度	10a当たり使用量	使用時期 (収穫前使用日数) (日)	使用回数 (回)	成分含む総使用回数 (回)
麦類	—	ストロビーフロアブル	2000～3000倍	60～150L	14	3	3
麦類	—	トリフィン水和剤	1000～2000倍	—	14	3	3
麦類	—	石灰硫黄合剤	50～60倍	—	—	—	—
麦類	—	サルファーゾル	400倍	—	—	5	5
麦類	—	イオウフロアブル	400～800倍	—	—	5	5
—	小麦・大麦	チルト乳剤25	1000～2000倍	60～150L	(小麦) 3	3	5(春期以降は3回以内)
—	小麦	アミスター20フロアブル	2000～3000倍	100～200L	(大麦) 21 7	1 4	1 同左
—	小麦	バルケート水和剤	1000～2000倍	60～180L	21	5(出穂期後は2回以内)	5(出穂期後は2回以内)
—	小麦	トップジンM粉剤	—	4kg	14	3(出穂期後は1回以内)	3(出穂期後は1回以内)
—	小麦	トップジンM水和剤	1000～1500倍	—	14		
麦類	—	トップジンM粉剤	—	4kg	30		
(小麦除く)	—	トップジンM水和剤	1000～1500倍	—	30		

表3 無人ヘリコプター用の防除薬剤

大グループ名	作物名	薬剤名	農薬使用基準				
			使用濃度	10a当たり使用量	使用時期 (収穫前使用日数) (日)	使用回数 (回)	成分含む総使用回数 (回)
—	小麦・大麦	チルト乳剤25	8倍	0.8L	小麦 7	3(春期以降は3回以内)	5(春期以降は3回以内)
—	—	—	—	—	大麦 21	1	1
麦類 (小麦を除く)	—	トップジンMゾル	4倍	0.8L	30	3(出穂期後は1回以内)	3(出穂期後は1回以内)
—	小麦	トップジンMゾル	4倍	0.8L	21		
—	小麦	シルバキュアフロアブル	16倍	0.8L	14	2	2

山口県病害虫防除所  
 担当：野崎・岩本  
 Tel 083-927-4006  
 Fax 083-927-4071